

公衆衛生学実習

科目責任者 小 橋 元

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

公衆衛生学は人々の健康や医療の基本となる学問であり、実習では社会と医療に関わるさまざまなテーマから1つを選択して体験学習を行う。最終日には各グループに、普段は出来ない貴重な体験から得た感動・学びをまとめた発表をお願いする。ぜひクラス全員でこの感動を共有してもらいたい。このような実習は学内・学外の多くの施設の協力があった初めて成り立つので、学生諸君はこうした貴重な体験ができることに感謝して、真摯な態度で実習に参加してほしい。

II. 担当教員

教 授	小 橋 元	公衆衛生学
教 授	春 山 康 夫	公衆衛生学
准教授	小 松 渡	公衆衛生学
准教授	遠 藤 源 樹	公衆衛生学
特任准教授	梅 澤 光 政	医学部
講 師	岸 久 司	公衆衛生学
講 師	松 原 優 里	公衆衛生学
講 師	松 岡 佐 知	医学教育学
助 教	阿 部 美 子	公衆衛生学
助 教	高 山 英 士	公衆衛生学
特任教授	岩 田 昇	大学院看護学研究科
非常勤講師	大 平 修 二	公衆衛生学
カウンセラー	菊 地 碧	保健センター
外部講師	駒 橋 徹	鹿沼病院
外部講師	森久保 寛	栃木県保健衛生事業団
外部講師	石 野 祐三子	日産自動車株式会社栃木工場
外部講師	稲 益 大 悟	公益財団法人 しずおか健康長寿財団
外部講師	高 橋 由紀子	栃木産業保健総合支援センター

III. 一般学習目標

・社会と医療に関わる諸問題と、それらに対する社会の取り組みについて、体験学習する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 地域医療について説明できる。
- 2) 職場の健康問題と産業医の業務について説明できる。
- 3) 生活習慣と健康との関連について説明できる。
- 4) 環境と健康との関連について説明できる。
- 5) 健康づくりの方法について説明できる。
- 6) 疫学, EBMについて説明できる。
- 7) 予防医学(一, 二, 三次予防)について説明できる。
- 8) 健康診断の方法について説明できる。
- 9) 国際保健活動について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他 空欄: 該当なし)

(1) 1グループ8~10人の小グループに分かれて, 公衆衛生学にかかわる様々なテーマで実習を行う。

(2) 1人につき1つのテーマしか選べないので, 他のグループで行っている実習内容について理解するために, 実習の最終回に各グループで行った実習内容についての発表を行う。その際, 学習内容について深く理會するため, 発表者と学生間で質疑応答を行う。

(3) 実習で行った内容について, グループでまとめ, グループレポートとして提出する。

(4) 提出された個人レポートとグループレポートを用いて, 公衆衛生学実習報告書を作成する。

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	13	水	3	オリエンテーション	全 教 員	1
2-8		19	火	1-7	各グループに分かれて実習	各 教 員	4
9-15		20	水	1-7	各グループに分かれて実習	各 教 員	4
16, 17		25	月	4.5	各グループに分かれて実習	全 教 員	3
18-21		27	水	4-7	各グループの発表会, 質疑応答	全 教 員	5

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

原則として, 出席状況, レポート, 実習時および発表会時の取り組み姿勢等により総合評価する (100%)。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は指定しない

参考図書

「公衆衛生学」, 「予防医学・臨床疫学」の講義と同じもの。

その他, 実習担当教員の指定図書 (オリエンテーション時に提示)

VIII. 質問への対応方法

・原則的には, 実習の中で対応する。

・担当教員に連絡し, オフィス・アワーもしくは指定された日時に質問に行くこと。

連絡先: 公衆衛生学講座 (総合教育研究棟11階 / TEL: 0282-87-2133, e-mail: pubhealth@dokkyomed.ac.jp)

月~金曜日 (祝日を除く) 8:30~17:00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。(30分)

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。